



水あそびを楽しみましょう

7 月になり、これからどんどん暑くなっていきます。天気の良い日は水あそびを行い、冷たい水の心地良さや面白さを感じられるとよいですね。この時期は体力や食欲が落ちたり、睡眠時間も不十分だったりして夏バテしやすい時期でもあります。生活のリズムを整えながら、この夏を元気に乗り越えていきましょう。

「みたて・つもり」の世界は「生活の鏡」

2～3 歳の子どもたちのあそびを見ていると、「よくもまあ、飽きもせずに同じことばかりをくり返しているなあ」と言いたくなることがあります。しかし、よく見るとけっして単純な繰り返しではありません。器から器へ移しかえたり、スコップですくって器のなかに入れ分けていくあそびの中にも、何か具体的イメージがあって、それを反映した子どもなりの意味があるようです。

この 2～3 歳の子どもたちの、一見変化に乏しいあそびも、子どもなりのみたてやつもりの世界があります。葉っぱを敷いて、その上にお砂をのせて、トントんと叩いている女の子に「何をつくったん?」と問えば、「カレーライスをつくったねん」と返ってきました。さらに、「きのう、おかあちゃんとつくったねん」と補足してくれました。なるほど、昨日の夜、本当におかあさんとカレーライスをつくって、じゃがいもを包丁で切らせてもらったのかもしれません。あるいは、ごはんの上にカレーをかけるしごとをさせてもらったのかもしれません。

この時期の子どもの「みたて・つもり」の世界は、「生活の鏡」です。1 歳半ころの発達の質的転換期を達成していくときに、おとなのしごとへの憧れの心を芽生えさせ、日々の生活のなかでその憧れをひとつひとつ実現しながら、ここまで成長してきたのでしょう。そして、この「みたて・つもり」の世界は、これからの子どもたちの発達にとってとてもたいせつな力をつくる「発達工場」です。子どもは、この「みたて・つもり」の世界の楽しさを知ると、経験の世界をイメージとして呼び起こし、そしていっそう「みたて・つもり」を豊かにしていこうとするのです。「みたて・つもり」の世界があることによって、しごとへの憧れの心がいっそう高まってくるといえるでしょう。つまり、「みたて・つもり」はイメージの力の「製造工場」で

あり、子どもが生活経験を広げていこうとするエネルギーを生産する工場でもあるのです。

このイメージの力が、幼児期の子どもの表現を豊かにしていきます。それは、描く・つくる活動だけではなく、はなしことばという媒体を通じて豊かになっていくことでしょう。そして、やがては、イメージの豊かなはなしことばが文脈をつくる力にも結びつき、書きことばの世界をつくる土台にもなっていくはずです。

～中略～ 一番求められるのは、再現してみたい生活経験の豊かさをつくることです。

「みたて・つもり」こそ、「生活の鏡」なのですから。

参考文献：『発達の扉 上』 白石 正久

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

次回のめだか教室は…

めだか教室①…8月はありません

9月の予定は来月号でお知らせします

めだか教室②…8月26日(火) 9:20～11:15 →**みずあそび** をします

◎持ってくるもの 水着（もしくは水あそび紙パンツ）・タオル・着替え・水筒

※保護者の方も濡れてもいい服装でお願いします♪

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください